

(C) 支持柱両側が非耐力壁で、梁端周囲の加工が容易な場合。

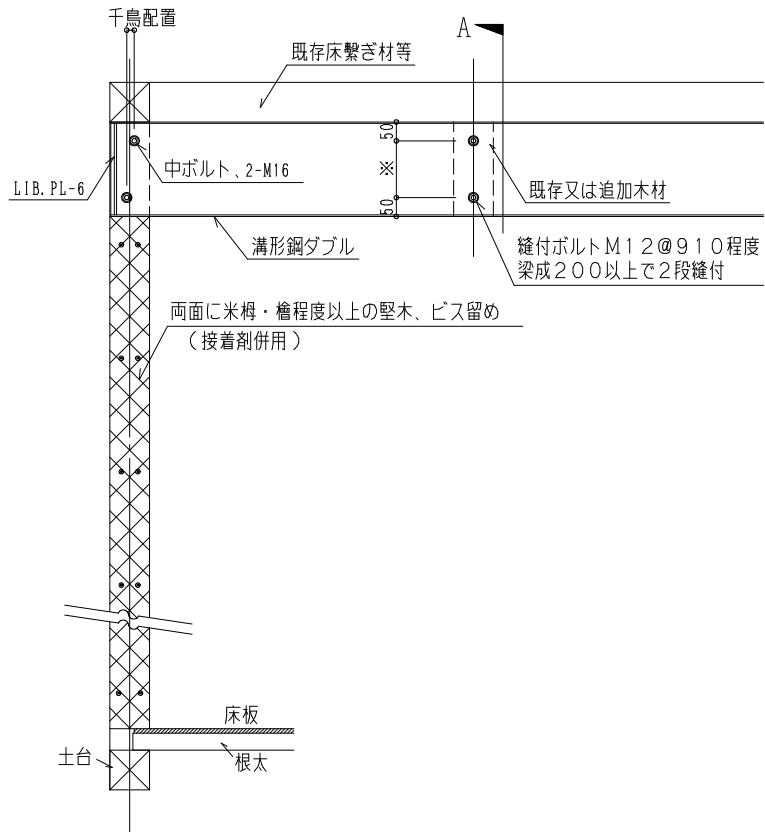
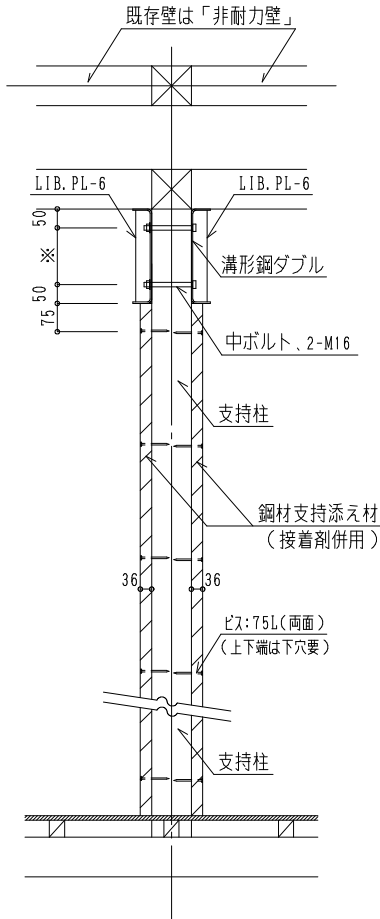
① 鋼材の空きが柱サイズ又は梁幅と同じ場合

共通事項

特記事項

1. 【添え材】：米桐、松、又はラワン等の堅木とし、接着剤併用のビス止めとする。ラワンについては防虫処理材を推奨します。
- 2.

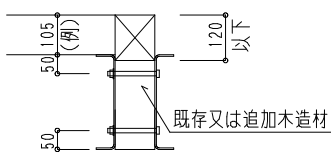
1. 補強鋼材同志の空き寸法は中間部でも同じになるよう、合わせること。
2. 支持柱への添え材は、ア36程度、幅：柱サイズ程度とし床上面まで伸ばすこと。
3. 補強鋼材端部の中ボルトはM16とし、その他はM12とする。また、支持柱柱頭に留め付ける中ボルトは適宜千鳥配置とすること。
4. 鋼材のフランジ幅は、50と75の2通りがあるが、いずれの場合も鋼材端部に取り付けるRIB、PLの幅は38とする。
5. ※の寸法は補強鋼材サイズに対応して決定すること。
- 6.



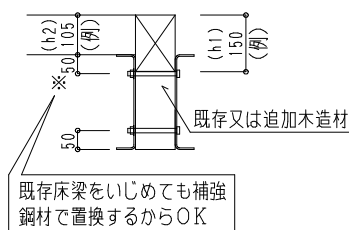
‘A’ SECTION

【補強鋼材上端の決定】：最大の既存直交梁下端に合わせる。

床梁成差が小



$h1$ と $h2$ の差が60未満のとき



$h1$ と $h2$ の差が60以上のとき

